

## ◆淀川沿川広域連携型まちづくり戦略 ～キャッチフレーズ:「ロマンあふれるなつかしいまち“淀川沿川紀行”」～

八軒家浜から枚方までの舟運復活を契機に、淀川沿川まちづくりプラットフォームの関係者が淀川沿川の将来像を共有することを目的とする。

### 基本目標

淀川沿川の地域資源を活かし、その価値を高め、広域的な視点でつなぐことで、魅力あふれる都市空間を創造し、まちづくりを推進する。

### 3つの視点

訪れたいまち

住み続けたいまち

誇れるまち

### 淀川沿川の地域資源

#### 淀川舟運の復活

(季節・定期便運航、三十石船 等)  
充実した鉄道ネットワークやサイクルルート  
(京阪電鉄、阪急電鉄、北大阪サイクリン 等)

#### 魅力的な歴史街道や沿川文化

(京街道〔東海道〕、西国街道、お茶、ジャズ 等)

#### 多彩なイベントの開催

(花火大会、淀川わいわいガヤガヤ祭り 等)

#### 豊かな自然と再生の活動

(寝屋川点野ワンド、十三干潟、鶴殿ヨシ原 等)

#### 個性的で美味しい特産品

(伏見酒、山崎ウイスキー、くらわんか餅、守口大根、鳥飼なす 等)

### 具体的な取組

1

#### 淀川舟運の活用

例) 河口から伏見までの航路の拡大、船着場の活用 等



観光船「ひまわり」  
(八軒家浜～枚方)

2

#### サイクルルートの活用

例) サイクルルートの充実、サイクルステーション整備 等



サイクリング

3

#### 淀川ブランドの創造と活用

例) 新たな特産品の創出、特産品の船内及び通信販売 等



淀川天然うなぎ

4

#### 歴史街道や文化的資源の活用

例) 古民家等の活用、観光マップの充実、トレーディングカードの作成と販売、「淀川沿川の魅力発見」川柳コンテスト 等



東海道57次宿場町  
守口宿(英国館)

5

#### 魅力ある景観の形成

例) 淀川沿川や歴史街道のビュースポットの選定 等



夕暮れのうめきた

6

#### 自然の保全・再生と活用

例) 自然再生活動の実施、水辺の総合学習 等



清掃(寝屋川市)

7

#### 助け合いによる安全・安心の確保

例) 平常時における災害対応力向上、災害時における避難所や物資運搬の応援 等



訓練(イメージ)

8

#### ビジュアル情報の発信

例) SNSによるビジュアル情報発信、淀川プロモーションビデオ“畔”-hotori- 作成  
(URL: <https://www.youtube.com/watch?v=k4xfhM15i64>) 等



背割堤の桜  
(八幡市)

### 戦略実現に向けた環境整備

- ①多様なまちづくり団体の連携
- ②公共空間の利活用の促進
- ③まちづくりを担う人材の発掘と育成
- ④継続したまちづくり活動の仕組みづくり

### 取組体制

淀川沿川まちづくりプラットフォーム等の活動を通じ、関係者の相互連携により具体的な事業を実施する。

#### 【構成員】

・NPO法人 伏見観光協会・一般社団法人 八幡市観光協会  
・大山崎ふるさとガイドの会・ふるさと島本案内所「うたいの会」  
・公益社団法人 高槻市観光協会・NPO法人 枚方文化観光協会  
・淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会・ねや川水辺クラブ  
・守口門真歴史街道推進協議会  
・なにわ淀川花火大会運営委員会・大阪・天神祭実行委員会  
・石清水なつかしい未来創造事業団・京街道にぎわいづくり連絡会議  
・大阪水上バス(株)・一本松海運(株)・伴ビジュアル(株)  
・京阪ホールディングス(株)・旅Tomo-Planning

#### 【オブザーバー】

・国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所  
・淀川河川公園管理センター  
・京都府・大阪府・京都市・八幡市・大山崎町  
・島本町・高槻市・摂津市・枚方市・寝屋川市  
・守口市・大阪市・水都大阪コンソーシアム  
・阪急電鉄(株)・摂南大学

#### 【事務局】

・大阪府 住宅まちづくり部

## ■大阪広域ベイエリアまちづくりビジョンの目的

夢洲における万博・IRのインパクトや関連インフラ整備の効果を、泉州地域沿岸部の様々な地域資源を活用し、ベイエリア全体の活性化、さらなる大阪・関西の発展につなげるため、2050年を長期目標とした大阪広域ベイエリアの将来像を示すとともに、様々な主体の取組みの基本的な方向性を示す。

## ■2050年の大阪広域ベイエリアがめざす姿

（仮）人・モノ・空間・時間をつなぐ大阪広域ベイエリア

多様な交流により、最先端技術と由緒ある歴史・文化、豊かな自然環境が調和し、豊かな暮らしと大阪・関西の持続的発展を実現

世界中の人を惹きつける  
文化・観光エリア

アジアとつながり新たな価値を  
生み出す産業エリア

様々な恵みとうるおいをもたらす  
海辺環境エリア

誰もが安全・安心で快適に活動できるスマートなまち

## ■取組みの方向性

各地域の特徴を活かしなが、地域資源やストックを“みがき”、“つなぐ”、広域に“広げる”とともに、めざす姿の実現に向けた様々な取組みを“育てる”ことで、大阪広域ベイエリア全体の魅力を高める。

なお、新型コロナウイルスの影響を踏まえて取り組む。

“みがき”

- 地域資源等の個性をみがく
- 価値を守り、新たな魅力を付加
- 新たな資源・魅力を創出

など

“つなぐ”

- テーマやストーリーで資源等をつなぐ
- 公民連携により相乗効果を創出
- アクセスや情報発信を強化

など

“広げる”

- 隣接府県や西日本等との連携により取組み効果を広げる
- 国内外への情報発信により活動を広げる

など

“育てる”

- 社会実験やスタートアップ支援により事業や活動を育てる
- 観光資源やまちのブランドを育てる
- まちづくりの担い手となる人や組織を育てる
- 海への関心や愛着を育てる

など

## ■重点的な取組み（つなぐ・広げる）

## 【海上交通の活性化】

（取組みの方向性）

- 大阪湾内の拠点を結ぶネットワークを充実させることで、多様な移動手段の確保、ベイエリアの回遊性の向上を図る。
- 海の駅の連携など、海洋性レクリエーションの活性化を図る。
- 大阪湾と瀬戸内・西日本等とを結ぶネットワークの形成、水都大阪・淀川舟運との連携、周遊クルーズの充実等によりベイエリアの魅力を高める。

<具体例>

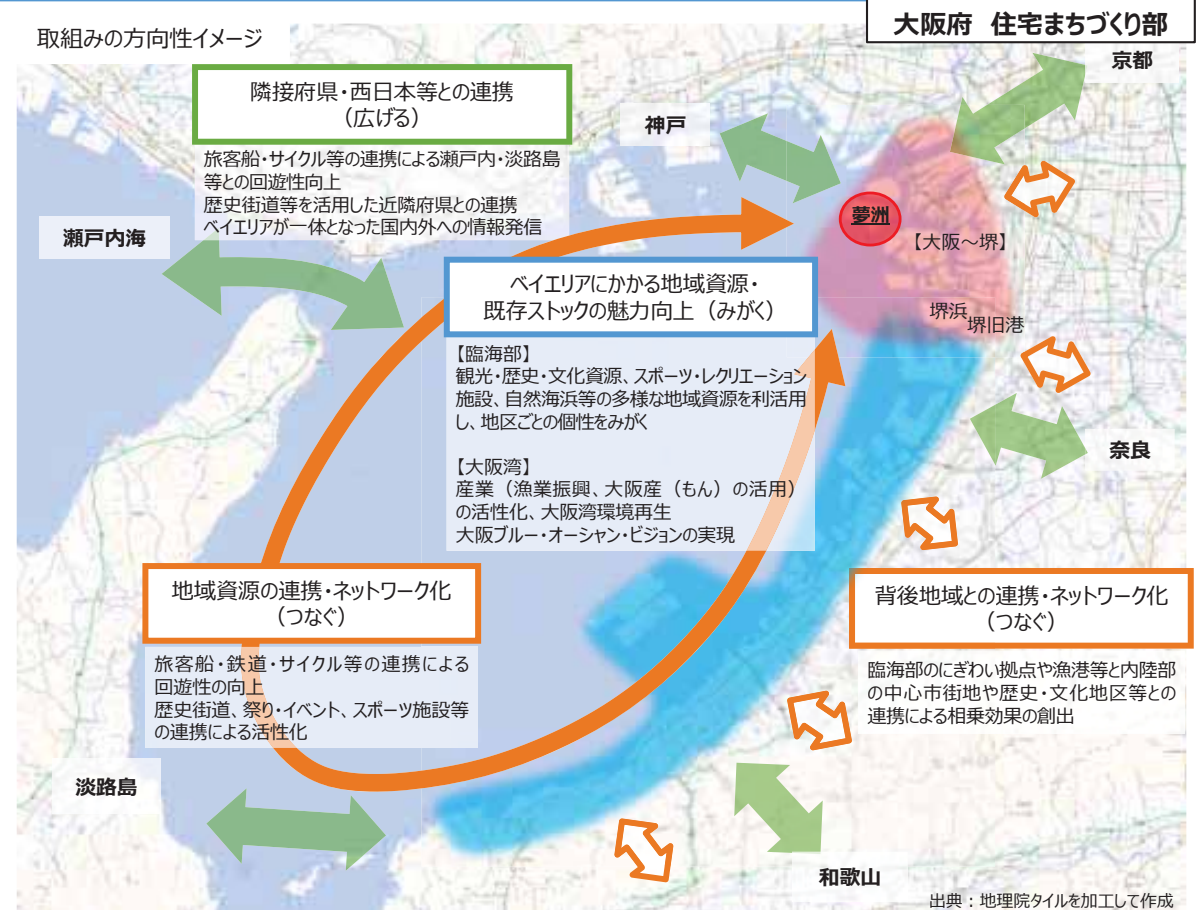
- ・クルーズ客船の母港化
- ・湾内船着場規格の統一、船着場までのアクセスの快適性・利便性向上、船着場周辺のにぎわい創出・魅力向上
- ・寄港地、停泊地周辺の地域魅力の向上（集客施設との連携、みなとオアシスの認定など）
- ・海と川を運行可能な造船
- ・自転車など、他の交通手段との連携
- ・船内コンテンツの充実
- ・定期運航に向けた支援、柔軟な法制度の運用

など



出典：地理院タイルを加工して作成

## 取組みの方向性イメージ



出典：地理院タイルを加工して作成

## 【広域サイクル連携の推進】

（取組みの方向性）

- 大阪広域ベイエリアは琵琶湖と淡路島の間位置し、泉州サイクルルートや海上交通等を活用し、各サイクルルートをつなぐ広域サイクルネットワークを形成するなど、観光やスポーツとしてのサイクリング環境を整備し、新たな人の動きを創出する。
- 安全に通行できるサイクルルートの設定やシェアサイクルの効果的な活用により、内陸部から臨海部へのアクセスや臨海部の回遊性の向上を図る。

<具体例>

- ・サイン表示など、統一した通行環境整備
- ・サイクルルートの周知・情報発信（アプリやマップの活用など）
- ・利用タイプに応じたシェアサイクルの導入（長距離型、観光型など）
- ・サイクルサポートステーションの設置促進
- ・にぎわい拠点の整備や誘客イベントの実施など、まちの周遊魅力の向上
- ・海上交通（フェリー、渡船など）や鉄道など、他の交通ネットワークとの連携

など



出典：地理院タイルを加工して作成

※本資料に記載の内容は確定したものではありません。今後の関係者との協議を踏まえ、適宜、見直しします。



# 水と光のまちづくり推進に関する基本方針 ～「水と光の首都大阪」の実現に向けて～

(2021年3月1日改訂)

大阪では、2001年の「都市再生プロジェクト」採択以降、行政・企業・市民が連携し、「『水都大阪』の再生」に取り組んできた。その結果、都心部の河川に遊歩道や船着場が整備され、それらを活かしたクルーズや規制緩和を活用した水辺の民間ビジネスが生まれるなど、大阪はトップランナーとして、常にわが国の水都づくりをけん引し、さらなる都市ブランド向上に向けて取り組んできたところである。

また、公民が協力して進めた護岸・橋梁・高速道路橋脚の日常的なライトアップや、冬の風物詩として定着した「大阪・光の饗宴」など、大阪は日本でも有数の美しい光景観を楽しめる都市ともなった。

我々は、2025年の大阪・関西万博及びさらにその先に向けて、魅力溢れる「水と光の首都大阪」を実現し、その結果、世界の都市間競争のなかで、域外から人を惹きつけ企業や新たな投資の呼び込みにつなげることで、大阪の持続的な成長を推進するため、以下の方針を掲げ、オール大阪で取り組む。

## ◆世界に誇る「水と光のシンボル空間」の実現

大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部を口の字に流れる「水の回廊」を中心に、船が行き交い、人々が水辺で集い憩う、他都市に類を見ない水都大阪の修景づくりを進める。また、御堂筋や中之島を光で彩るとともに、民間主体の光のプログラムとも連携し、圧倒的な光景観を創出する。

こうした取り組みを通じて、世界に誇る「水と光のシンボル空間」を実現する。

## ◆水と光の広がりや厚みによる新たな魅力創造

多彩な民間の知恵を最大限活かした「水の回廊」とバイエリアとの連携、「大阪・光の饗宴」における地域連携の強化などによって、「水」と「光」の魅力を大阪のまち全体への魅力に広げるとともに、文化・スポーツ・グルメ・イベント等との連携によるナイトカルチャーや観光メニューの創出などによって新たな魅力を創造する。また、淀川から2025年大阪・関西万博会場へのアクセス向上に公民連携で取り組む。

## ◆誰もが憧れる「水と光の首都大阪」ブランドの確立

大阪を訪れる人々に感動を提供するとともに、多様な主体が連携し、大阪の「水」と「光」の魅力を戦略的・効果的に国内外に発信することで、世界の誰もが憧れ、大阪の人々が誇りにできる「水と光の首都大阪」ブランドを確立する。

## ◆多彩な「民」の参画とビジネスの創出・活性化

「水」と「光」を活かした都市魅力創造の好循環の実現に向けて、公民の役割分担と強い連携のもと、これまでの取り組みの成果を踏まえ、水都大阪の持続可能な成長をめざす公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム」によるコーディネート機能や、「大阪・光の饗宴」の開催による魅力づくり等を通じて、企業やクリエイティブな人材等の多彩な「民」や学、地域、市民の参画を促し、新たなビジネスの創出・活性化やまちづくり活動の促進を図る。

以上

### 水と光のまちづくり推進体制（2017年度～）

#### 水と光のまちづくり推進会議

(2015年5月～)

- 〔会長〕 大阪商工会議所 会頭
- 〔副会長〕 大阪府知事
- 〔委員〕 大阪市長  
関西経済連合会会長  
関西経済同友会 代表幹事  
大阪観光局長  
学識経験者
- 〔事務局〕 大阪商工会議所

- ・ 水と光のまちづくり基本方針の策定
- ・ 事業実施団体である「水都大阪コンソーシアム」「大阪・光の饗宴実行委員会」「光のまちづくり推進委員会」に対する活動の支援

#### 水都大阪コンソーシアム（2017年度～）

水都大阪の取組推進を目指す公民共通のプラットフォーム。水都事業の企画立案、魅力創出の実践、規制緩和に向けた調整等を行う

#### 大阪・光の饗宴実行委員会

中之島や御堂筋のほか、民間プログラムもあわせ、イルミネーション事業を展開

#### 光のまちづくり推進委員会

官民一体となって恒常的な光のまちづくりを推進

## ○公共空間の整備



before

《指定区域名：八軒家浜》  
船着場と川の駅はちけんや



after



## ○民間事業の展開



before

《指定区域名：北浜》  
北浜テラス



after





# 大阪商工会議所の淀川活性化に向けた取り組み

これまで

## ◆提言とりまとめ

「淀川の活性化と賑わい創出に向けた提言」(2015年2月)  
⇒淀川の賑わい創出に向けた実験事業「淀川アーバンキャンプ」開催(2015年度～2019年度)

## ◆情報発信

- ① 機関紙『大商ニュース』(月2回、3万部発行)やFacebook等を通じた発信
- ② 大阪経済記者クラブでのプレスリリース支援 等

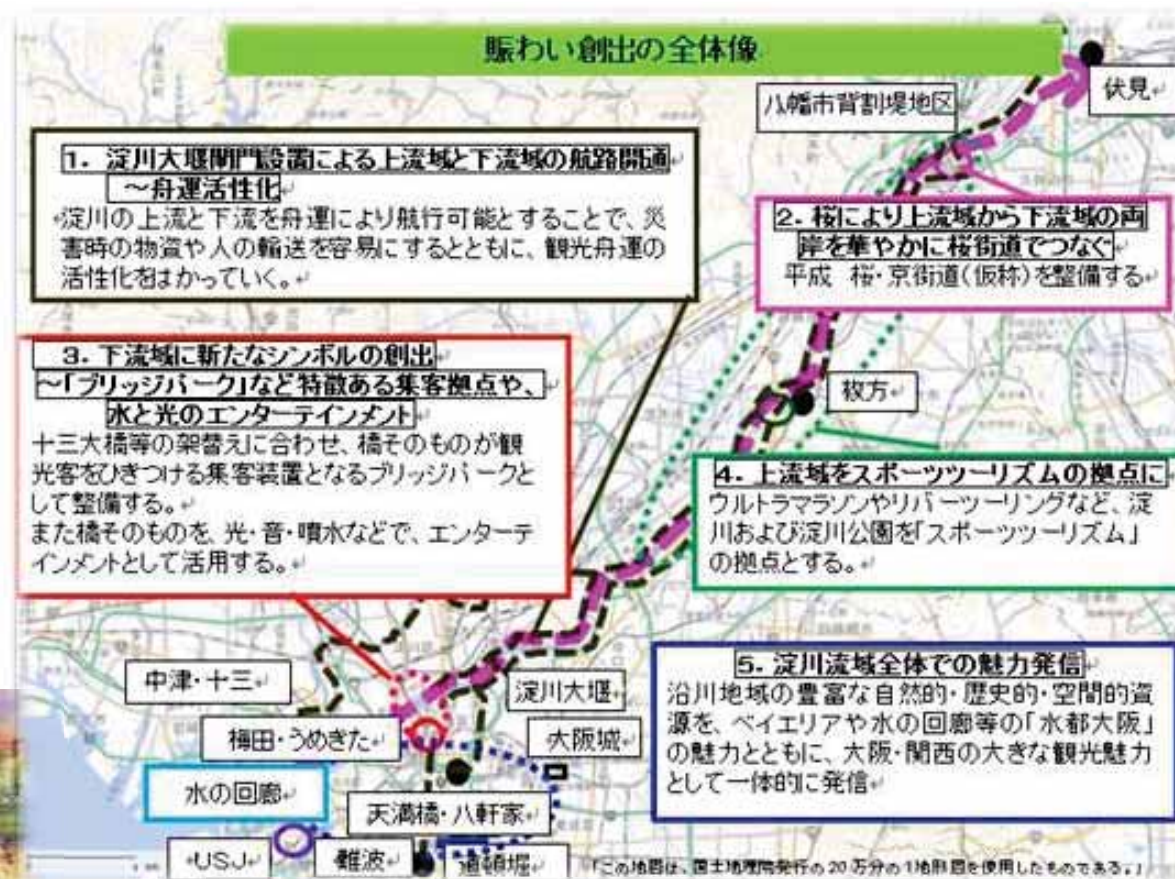
今後

## ◆関係者との連携支援

- ① 全国水都ネットワーク  
(水辺のまちづくりに関心のある行政、民間企業、NPO、地域団体など全国の水都10都市13団体が加盟)
- ② その他事業者 等



《下流域(中津・十三地区)の賑わい拠点イメージ》



《上流域(枚方地区)のスポーツツーリズム拠点イメージ》



【ビジョン】世界に類をみない第一級の水都の創造とともに、住まう人・携わる人・訪れる人を笑顔に

- 歴史と文化に培われた水都大阪を次世代につなぐ
- 世界の多くの人々が水都といえば大阪を思い起こす魅力あるにぎわい空間の創出
- 安全・安心で環境と共生する持続可能な水都大阪の確立

2001～2016年度

第1フェーズ【再生】

2017～2020年度

第2フェーズ【成長】

2021年度～

第3フェーズ【持続的な成長】

(= 面的展開)

基本コンセプト

- (1)水辺・水上観光メニューの拡大  
スマート水都、夜間観光、歴史・文化・スポーツとの連携など。
- (2)舟運のさらなる活性化を推進  
(水の回廊を中心に)  
シンボル空間の創出、水辺の景観づくり、新航路の開発、万博連携など。
- (3)安全・安心な水都大阪  
航行ルールの普及啓発、コロナ対策、水辺の安全な環境整備など。
- (4)民間ビジネスの創出  
民間参入に向けた規制緩和、ニーズ把握、公民マッチングの促進など。
- (5)ブランディングの強化  
外部メディアとの連携、歴史・文化の訴求、地域住民・若者へのPRなど。

- ◆水の回廊のさらなる活性化【深み・厚み】
- ◆ベイエリアや淀川舟運との連携【広がり】
- ◆人々が集う水辺ライフスタイルの定着【つながり】



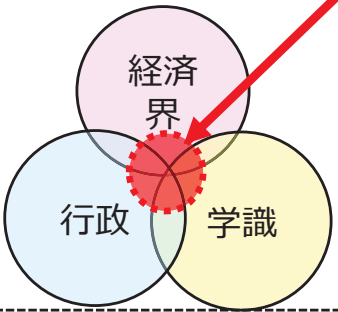
推進体制

- 「水と光の首都大阪」の実現に向けて、公民共通のプラットフォーム機能を有する組織として水都大阪コンソーシアム（SOC）を運営
- SOCはコーディネート機能を発揮するとともに、大阪が水都のトップランナーとしてオール大阪で取り組み、その活動を域内外へPR

水都大阪コンソーシアム（SOC）

<構成団体>

経済界（大阪商工会議所・関西経済連合会・関西経済同友会）  
行政（府・市）・学識者  
大阪観光局・大阪シティクルーズ推進協議会





直近の河川敷周辺の様子（3月27日現在）

